

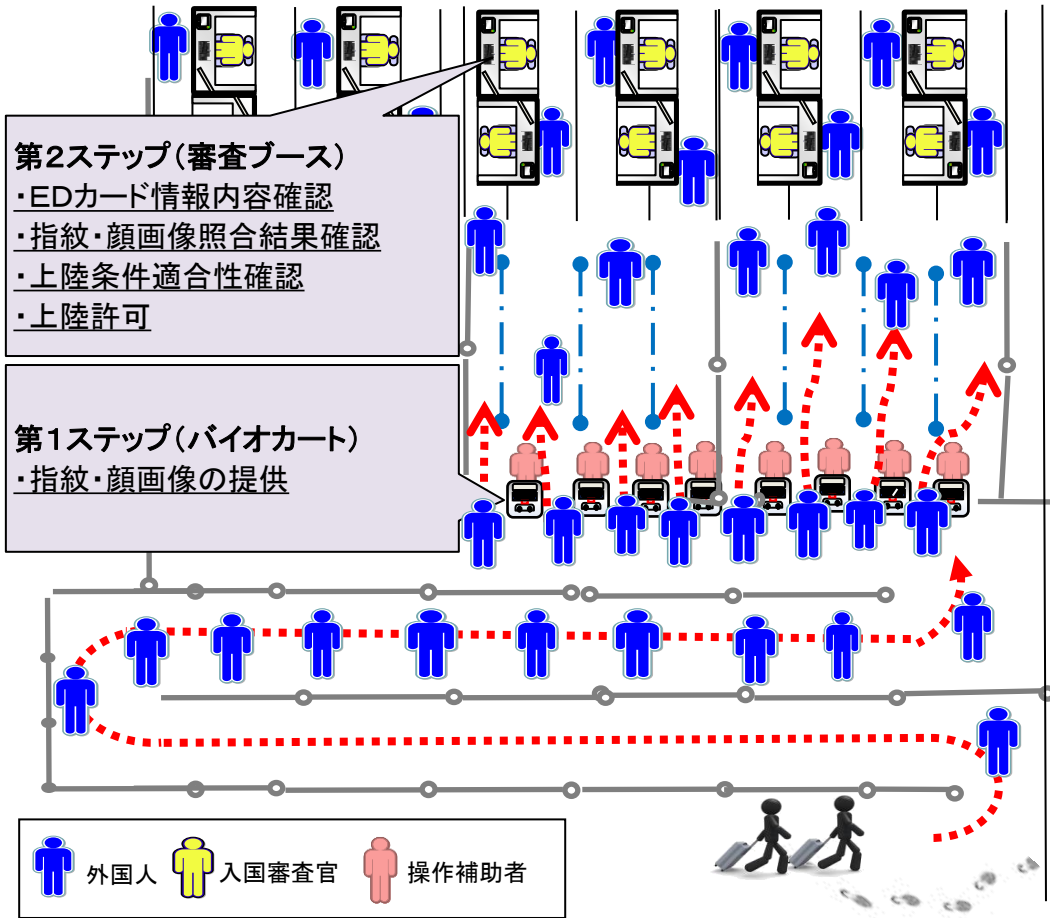
上陸審査場における個人識別情報(指紋及び顔写真)の提供手続迅速化

現状

「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」(2016年3月)において、2020年の訪日外国人旅行者数の目標が4,000万人、2030年の目標が6,000万人と定められたことに鑑みると、訪日外国人旅行者数の増加の勢いは今後一層加速していくことが予想される。

バイオカート導入後の上陸審査場イメージ

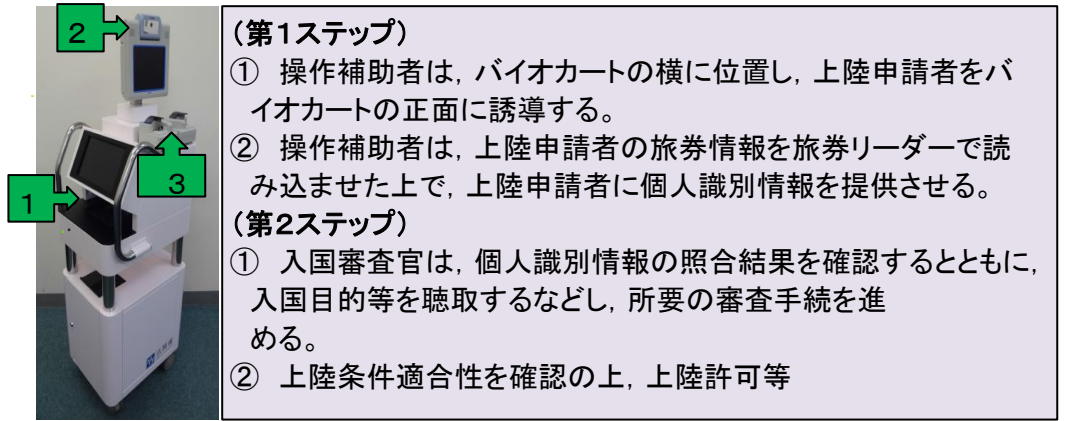
個人識別情報の提供を前倒し→審査の円滑化



目的・効果

審査待ち時間を20分以内とする目標を達成するため、審査待ち時間を利用して、個人識別情報を事前取得する「バイオカート」を導入する。
これにより、**入国審査官による審査時間が従来の2/3程度に短縮できる見込み。**

バイオカート導入後の審査手順



バイオカート導入空港

平成28年10月(10月1日から試行運用, 10月7日から本格運用)

- ① 関西空港
- ② 高松空港
- ③ 那覇空港

今後

平成28年8月24日に閣議決定された平成28年度補正予算第2号政府案に、バイオカートの購入費等が計上されており、来年度から、成田空港のほか11空港にも拡充予定。